柏野地区白山市ミライ会議

1. 会議概要

項目	内容
開催日時	令和8年7月2日（木）19:00～
開催場所	柏野コミュニティセンター
参加者	１０名（市長、コミュニティ柏野、柏野青年団、地区代表）
選択トピック	R7ミライ会議の課題から 1.地域活動・伝統文化の継承 2.防災力の強化 3.柏野地区の未来について（人口減少・高齢化対策・土地利用・通学路除雪・水質検査）



2. 主な議題と意見

（1）地域活動・伝統文化の継承と防災力の強化





① 現状

- 令和 7 年度の新規取り組みとして、「あいあいフェスティバル」を 11 月の文化フェスと同時開催し、2 日間で 396 名が参加、松陽校下スタンプラリーを開催し、松陽校下 263 名中 64 名（約 25%）の子どもが参加した
- 令和 8 年度は「チャレンジジュニア」に地域の先生を巻き込んだ新たな取り組みや、「あいあい広場」（毎月第 1 水曜）、「柏野すくすく広場」（毎月第 3 日曜）を子育て世帯や地域住民の交流の場として設けている
- 青年会が中心となって子どもの虫送り太鼓チームを結成し、15～16 名の小学生が参加している
- じょんがら保存会では、こども園から大学まで（金城大学 47 名・松任高校 17 名）が参加する取り組みを展開中
- 柏野地区では、これまで防災訓練を一切行っていなかったが、令和 8 年 9 月 6 日をめどに危機管理課の助言を受けながら地区全体で初めて実施予定

② 課題

- 笠間中学校で実施していた「土の子講座」が、じょんがら保存会の高齢化と若い人材の平日確保の難しさから休止状態となっており、伝統文化継承の担い手が不足している
- 甚大な災害がほとんど発生しない地域であるため、防災意識が薄れているという危機感が地区代表から示され、高齢者の把握と防災対応が課題となっている

③ 市の主な方向性・回答・対応

- 自主防災組織について 28 コミュニティ中 13 が立ち上がっていることを示し、訓練の継続を呼びかけた（柏野コミセンはマンホールトイレ等整備済み・防災コミセン）
- 高齢者の一人暮らし把握については、民生委員・福祉協力員と連携して対応しており、地区の防災訓練の中でも把握を進めてほしい
- 様々な場面で地域との連携は重要だと考えており、「土の子講座」についても、持続可能な形で継続されており、柏野地区の希望を学校側へ働きかけていく

（2）柏野地区の未来について（人口減少・高齢化対策・土地利用・通学路除雪・水質問題）





① 現状

- 柏野地区は高齢化率が白山ろくに次いで高く、20 年間で人口が約 3 割減少した町もあり、一世帯当たりの人口も 3.13 から 2.4 に低下、今後、数十年で2割以下になる見通し
- 令和8年6月に「柏野地区の未来を考える会」を立ち上げ、住宅・農業・福祉・学校など地区の将来像を検討中。現在アンケートを実施中（約 40 件回収）
- 地区全体が市街化調整区域であるため、住宅建設が制限されており、人口増加が見込めない状況にある
- 令和 7 年度アンケートで「買い物する場所が少ない」という意見が白山市内で突出して多く、移動販売も収支が合わず将来的な継続が危ぶまれている

- 笠間中学校前の新住宅地（25 軒）の子どもたちが通う通学路は除雪区間の第 3 次路線であり、大雪時に除雪が間に合わず子どもが通学できない事態が発生した
- 小上町・下荒屋は現在も簡易水道（井戸水）を使用しており、PFAS 等の水質検査費用（民間依頼で約 20 万円）が高額なため、住民の不安が解消できていない

② 課題

- 老人ホームの建設を検討しているが、施設形態（ケアハウス・特養・老健等）の選定や運営主体（社会福祉法人）の確保に時間がかかると想定される
- 地域では、西柏こども園の移転・実施設計が進む中、こども園の敷地に老人ホーム・ドラッグストア・バス停等を集約した「幼老連携の拠点」を整備したいという構想があるが、複合施設化の実現に向けたハードルが高い
- 通学路の除雪区間が第 3 次路線であるため、通学時間帯に通学路の除雪が間に合わない（除雪路線の 1 次格上げを要望している）
- 簡易水道の水質問題について、小上町・下荒屋では上水道への切り替えが 5 年後以降の見通しであり、それまでの間、PFAS 等の水質調査費用を住民が負担することが困難

③ 市の主な方向性・回答・対応

- 第 3 次総合計画を考える際にも高齢化への対応は考える必要があり、地区の構想を市として参考にしていく
- 土地利用・都市計画については、市関係課を呼んだ勉強会の開催を提案した
- 通学路除雪については、「飛び地ができると、除雪の対応が遅れている」との状況を認識し、引き続き対応を検討する
- 水質検査については、「簡易水道組合の PFAS 検査は国交省が 4 月から必要とする方向」と説明し、水道担当と対応を協議する

---

3. まとめ

柏野地区は、春フェス・夏祭り・文化フェスなどの地域行事に加え、子どもたちによる虫送り太鼓やじょんがら踊りなど、地域の伝統文化を次世代につなぐ取り組みを進め、地域のつながりを大切にしている地区です。

今回のミライ会議では、柏野地区の未来を考える会を中心に、人口減少・高齢化への対応、買い物や交通の利便性向上、子どもと高齢者が交流できる地域拠点づく

り、防災・通学環境などについて、地域の現状と課題、将来のありたい姿が発表され、具体的な話し合いをしました。

　市としましては、住民の意向を踏まえた地域の将来構想づくりを支援するとともに、福祉・買い物・交通などの機能を組み合わせた地域拠点の可能性、防災訓練・高齢者の見守り、通学路の除雪、簡易水道の水質への不安など、関係部署と連携しながら課題解決に向けて検討していくことを確認しました。

